

学校運営協議会会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 令和3年度 岐阜県立岐南工業高等学校運営協議会（第3回）

2 開催日 令和4年2月17日（木）～2月25日（金）

3 開催場所 書面開催

4 参加者 委員 粕谷 幸司 元PTA会長
後藤 潤一 塩谷建設（株）工事部課長
眞田 豊 濃尾電機（株）取締役
柴山 恭子 元PTA副会長
正村 美里 岐阜県美術館 副館長兼学芸部長
透 千保 フリーアナウンサー
山口禎一郎 山口鋼業（株）専務取締役
(敬称略 50音順)

学校側 堀 修 校長
堀 晴貴 事務長
中田 卓生 教頭
安江 博 教務主任
古家 幸司 生徒指導主事
東松 宏明 進路指導主事
三輪 照導 工業部長

4 会議の概要（協議事項）

(1) 第1号議案 「スクール・ポリシー」の承認について

全ての委員の方から「岐阜県立岐南工業高等学校全日制課程スクール・ポリシー策定案」が承認された。

(2) 第2号議案 教育実践「課題研究発表会」について

意見1：就職内定をした生徒の学校での様子やものづくりでの活躍を知り、企業採用担当者として大変うれしい。このような舞台で発表を通して得た経験を、就職先企業でも発揮して活躍してほしい。

意見2：中庭の構築をインターロッキング舗装と真砂工舗装と組み合わせたところや、ドローンによる撮影やその発表手法に感銘を受けた。発表全体の構成などクオリティーが高く、将来役立つと感じた。

意見3：どの学科もよく考えられた課題研究であり、学校行事が少ない中で生徒が大きな手応えを感じていることが分かった。遊び心が感じられるものや、卒業後に役立つものまで様々な研究が行われ、よい経験になっている。先生や関係学科の協力によるところも大きいと感じた。

意見4：電気科、電子科、機械科の先へと繋がる発想と閃きの「ものづくり」、自動車科、建築科、土木科の、人を想うところから始まる「ものづくり」、どれも大変すばらしく、内容も例年に負けず劣らずの出来かと思う。「ものづくり」で活躍できる生徒達なのだと嬉しく思う。

(3) 第3号議案 本校の課題について

意見1：現状の多岐に渡る専門知識を身につける素晴らしい校風が、中学生にしっかり伝わっているかが少し疑問に感じる。親世代が持っている本校のイメージが先入観としてあるのではないか。オープンキャンパスや、PR動画などを工夫して広報に力点を置いてはどうか。

意見2：高校生が先生役となって、学校や学科のPRを含めたものづくり指導を中学生に行う「テクノスクール」は大変よい取組である。できれば、今後は小学生の「親子ものづくり体験教室」などを開き、夏休み作品制作の手伝いをする取組に発展することを期待したい。本校の魅力や雰囲気を知ってもらう機会となり、さらに小中学生や保護者から進路先の一つとして認識してもらえるのではないか。自身の経験からも子どもの夏休みの宿題を手助けできると、より本校の良さが伝わるのではないか。

意見3：学校の取組を見ると、夏の高校見学会、中学での高校説明会、チラシの配布など積極的にアピールしている。また、生徒指導や教育相談をはじめ、進路に関わる方面にも注力している。コロナ禍で様々な制限があるが、引き続き岐阜市、大学、地元産業界との連携やものづくり推進事業への参加を継続することが望ましい。

意見4：高校の授業においてそれぞれの学科における基本を学ぶ場だとは思いますが、世の中はすごいスピードでデジタル化が進んでいる。世の中の流れに沿った、新しいカリキュラムをもっと取り入れてみてはどうか。

意見5：一昨年は、コロナ禍の影響なのか普通科への流出が多くみられたが、今年の志願者数をみると、かなり回復している状況かと思う。子どもが減少しているのは否めない中で、求人先の紹介、資格取得状況を発信し、在学中のメリットや卒業後のメリットを分かっってもらおうとよいのではないか。また、高校生活という特別な時間を、どのように楽しく過ごせるかも重要だと思う。学校行事の充実とともに、授業内容を写真や動画で発信し、学校の雰囲気が中学生等により伝わるとよい。

(4) 第4号議案 本校の取組について

意見1：長引くコロナの影響は、生徒に生活面、学力面に大きな影響が出ていると推察する。リモートや授業時間の不足は大きな不安となって精神的なストレスにもなっていると思うので、様々なアプローチで心の安心を保ってほしい。

意見2：新たな取組として、海外交流プロジェクトも素晴らしい取組だ。また、PRチラシは、本校に入学するとどのようなことが学べるのかが伝わる楽しい内容である。

意見3：実験、実習を重視した取組はとても素晴らしい。今後、課題製作において、地域に貢献できる様な課題製作をしてはどうか。

意見4：資料から読み取ってみても、先生方の苦勞が見え、頭が下がる。中学3年生の子を持つ親として、中学で実施される高校説明会でのプレゼンが重要かと思う。より分かりやすく、写真や動画を用いた風景のような、見ることで受け入れやすい内容が効果的かと思った。そこで興味をもってもらうことで、高校見学会へと繋がる事も多いと思う。中学生の保護者は「昔の工業高校のイメージ」を強くもっているのではないか。保護者目線だと「学校の雰囲気」が優先されると思う。

意見5：各分掌の先生方の説明から、改めて、卒業生の親としてこれだけ生徒を想い、指導をされていることをありがたく思う。本校のチラシは子供達の出身中学の生徒が掲載されていると嬉しい。

6 会議のまとめ

第1号議案については、本校が作成した「スクール・ポリシー策定案」に対し全委員より承認を得られた。

第2号議案については、3年生が一年間かけて学科の特色を活かし作品制作に取り組んだ「課題研究」を踏まえて、本校の学校運営に対する意見を集約した。研究成果のプレゼンテーションでは、内定先企業や進学先の大学の方を審査員としてお招きし講評をいただいた。工業高校の特色である実践的、体験的な学習活動を通し、課題解決力の向上とともに、地域産業を支え社会に貢献しようと主体的、協働的に取り組む姿勢を育成する教育に委員より高い評価を得た。

第3号議案 本校は『入学生の確保』が喫緊の課題となっており、この課題解決のために学校として取り組むべき方策等について提言を受けた。入学定員を満たさない状況は、地域産業を担う人材不足を招き、ものづくりの技術を次世代へ伝承することができず、結果として、地域製造業の活力の低下をも引き起こしていることを共通認識できた。次年度以降もこの課題について引き続き提案をいただくこととした。

第4号議案については、本年度の本校の取組を教務部、生徒指導部、進路指導部、工業部の主任より説明した。本年度より実施した「海外交流プロジェクト Connecting the New World」については海外で活躍される方との交流を通し、生徒に自信と希望、広い視野を持つことで無限の可能性を感じ、自身の将来を考える機会としてほしいというような意見があった。

高い求人倍率にみられるように、本校は企業から高い評価を得ていることから、本校の教育活動に対して多くの委員からは肯定的な意見であった。